



進学校である灘高校ではラグビーで花園を目指すのが、進学校であるが故に、不完全燃焼だったという石岡さん。東京大学入学後ではアメリカンフットボールと学問の文武両道を目指し、「本物のアメフトがしたい」という思いから、卒業後にアメリカンフットボール社会人Xリーグ西地区の強豪「マイカルクラブベアーズ」に異色の新人として入部。ご自身の熱意と努力でスタメンを勝ち取り、プレーだけでなく、その頭脳を活かしチームに貢献した。その後は学生スポーツに関わり、学生アスリートと大学の架け橋となるべく、良きアドバイザーとして、スポーツ・コンプライアンス・オフィサーで学んだ知識と人脈を活かし活動を続けている。石岡さんに現在の活動内容などをうかがった。(写真提供：石岡さんより)

I. 第三者的立場で人と人をつなげる仕事

石岡吉泰

東京大学・社会連携本部 渉外部門 シニア・ディレクター
一般財団法人東京大学運動会監事
スポーツ・コンプライアンス・オフィサー

スポーツとの関わり

私とスポーツの関わりは灘高校（以下、灘高）でラグビーに出会ったことからスタートします。灘高は受験校なので、3年の春までしか活動ができません。その年の春の新人戦は新3年生としてはじめて試合をする大会です。本来は新人戦を皮切りに花園の全国大会に向けて戦っていくのですが、我々にとっては受験を控えているので、春の新人戦が最後の大会となります。決して強くはなかったですが、ラグビー部の健闘ぶりが地元紙で話題になったこともあり、勉強とスポーツの両立という思いが中途半端で終わってしまい、私自身、不完全燃焼感が残ってしまいました。

東京大学に入学してからはアメリカンフットボール部に入部しましたが、先輩方と話をするなかで、勉強とスポーツの両立に関する考え方が違うということがわかり、数か月で退部しました。その後、アメリカンフットボールはサークル「VIKINGS」で続けました。

就職を考える時期になり、同級生が就職を決めていくなかで、さらに高いレベルのアメリカンフットボールの世界で完全燃焼したいという気持ちが湧いてきました。そこで社会人アメリカンフットボールXリーグに所属する「マイカルベアーズ」の久保田薫監督に直談判しに行ったのです。全国の大学から有名選手を集めたアスリート集団のなかで異例でしたが、私の熱意を汲んでいただき入社させていただきました。レベルの高いチームですから、当初は、基本から学ばないといけないレベルでした。オフには筋トレも積極的に行い、体をつくりなおし、入社して3年でRBとしてレギュラーを勝ち取ることができました。チームではプレーだけでなく、対戦チームの戦力分析やスカウティング、リクルーティングなどにも参画し、これからというところで会社の方針が急変、廃部の危機に追い込まれました。部員全員で社長にプレゼンし、かろうじて部を存続することはできましたが、選手としてもっと成長したいという気持ちが強くなり、縁もあって同じくXリーグに所属する「学生援護会 ROCBULL」というチームに移ることにしました。ジョンポイントというアメリカでも名将と言われているヘッドコーチが



第 70 回全国高校ラグビーフットボール大会兵庫県予選にて（左：石岡さん）

ら、試合に勝つだけでなく、アメリカンフットボールを通じて人間的に成長する大切さを学びました。仕事面では、求人媒体の営業、営業推進、企画を経験し、代理店の中で学生アスリートの就職支援を行っている会社と出会いました。学生アスリートのサポートをする仕事をしようと決意し、転職しました。

この会社に入社後、いろいろな学生と出会いました。ある柔道部の女子学生に出会った時に「私は柔道をしていればいいの」と言って、自分の将来について何も考えていないことに驚きました。往々にしてこうした発言はスポーツ選手にみられますが、私はその考えではいけないと思い、もっと早い段階から学生に関わりたいたいと思い始めたのです。そのようなときにちょうど立命館大学で働いている「マイカルベアーズ」時代の後輩から、「立命館大学に来ませんか？」と声をかけていただきました。そのご縁で、立命館大学の職員となり、大学と関わるようになりました。その後、いろいろと勉強したいと思っていたタイミングで、東京大学に大学経営政策コースができたということで、立命館大学を辞めて、東京大学大学院修士課程学生となりました。とはいえ、仕事もしないといけないので探していたところ、ちょうど東京大学で現在の仕事の募

集がありましたので、応募し契約職員としてスタート。現在の仕事について 14 年目になりました。

幸いにも、これまでのスポーツ選手としての経験や所属チームでのマネジメント、企業での経験、立命館大学での職員としての仕事、すべてが現在の活動に活かされていると感じています。

東京大学での活動

現在、私は東京大学内の社会連携本部渉外部門でスポーツチーム シニア・ディレクターとして所属する一方で、一般財団法人東京大学運動会という組織にも属し、監事という役員の一人として、いろいろ助言をする立場にあります。

また、東京大学社会連携本部渉外部門ではスポーツと東京大学の内外の人たちをつなぐ仕事を行っています。

東京大学の運動部関連の組織について少しご説明しますと、「運動部」という学生・顧問教員（部長）などで構成される組織があります。そして、それらを受け止めていろいろと対応していく大学内の学生支援系の組織として「体育チーム」があります。それと別法人ではありますが、連携しながら運動会を動かす「運



マイカルベアーズ時代

動会事務局」があります。それらの組織間同士、さらにスポーツ関連分野の研究者の先生方をつなぐのが私の仕事の一つです。また社会連携本部の役割として、寄付などの外部資金獲得のコーディネートも私の仕事です。

人と人をつなげる仕事

東大の「運動会」は、他大学で言うところの体育会にあたる組織になります。東大には運動部に所属する部が48ありますが、それらを取りまとめている「総務部」に所属する学生スタッフがいますので、私は、

彼らと運動会事務局のスタッフが東大スポーツのハブとして活躍できるように助言をする立場にいます。そうした活動のなかで、スポーツ・コンプライアンスに関する強化が必要となり、スポーツ・コンプライアンス・オフィサー（以下SCO）の資格を持って活動することが必要と考えました。

私はこれまでお話ししてきたように、当事者同士をつなげる仕事をしており、いわゆる第三者的な立場にあります。いろいろな問題に対応しますが、それぞれの立場によって考え方や見え方、捉え方が違うので、現実的に問題解決までに時間がかかることや、対応が

むずかしいこともたくさん出てきます。私はスポーツのために人生をかけたいと思ってやってきましたので、いつでも相談者に寄り添ってみんなが同じ方向を向けることは何だろう、現実的に落としどころがどこにあるかといったことを常に考えて行動するようにしています。

たとえば、総務部の学生スタッフが各部の選手やマネージャーを取りまとめていくのですが、それぞれの部員は、自分たちの部が勝つため、うまく活動できるようにすることが第一優先です。当然、学生スタッフと各部の学生では考え方が違うこともありますから、運動部の学生スタッフが苦労しながら、まとめていることはよくわかります。学生スポーツの場合は、卒業や入学によって1年ごとに組織は変わってしまいます。そこでまた一から組織を作り直さないといけないことも出てきます。そういうことで苦労している姿を見ると、私だったらこうするのにと考えることは多々あります。そこで私が総務部の学生スタッフに助言できることもたまにありますが、それを動かすのは運動会事務局のスタッフであったり、体育チームのスタッフになります。多少の歯がゆさを感じることもあります。私が出ていってしまうのは介入しすぎと理解して

いるので、それぞれの役割を尊重して、そのなかで見守りつつ、気持ちに寄り添いつながっていくことが大事であると考えています。

とはいえ時には当事者であればもっと動けるのにと感じることもあります。当事者でないからこそできることがあると、ここ数年感じています。当事者の方たちは、これをやらなければいけないと思っていても、他の仕事に忙殺されていたり、学生のニーズを聞きたいけれど答えが見つけれないといった、当事者ならではのつらさがあったりすると思います。そうしたときに「まず石岡に一度相談してみようか」と学生やOBOGのみなさんがクッション役のように使ってくれることもあるように思います。私は第三者的な立場でいますので、相手も話しやすいようですし、当事者ではないからこそ助言できることがあります。当事者の方がお互い知らない部分を上手に伝えながら、つながっていくように心がけています。

また、運動部 OBOG の方々と大学をどうつなげていくか、また学生にどうつなげていくか、というところがやはり学生スポーツを考えたときにすごく重要なポイントになってくると考えています。OBOG の方たちの中には時には熱すぎる声もありますし、



スポーツと東京大学の内外の人たちをつなぐのが仕事



第三者的立場で中立だからこそ、学生からも頼られる存在に

OBOG の言うことが絶対といったスポ根の行き過ぎる面も出てくる場合があります。そういうこともあるので、東京大学では卒業生は学外者とスパッと分けて整理したがる面もあります。しかし、現在の総長は、対話が大事だとおっしゃられます。常に対等にいろい

ろな人の話を聞くことが大事だと言われています。今後は学外者と壁をつくるのではなく、仲間&応援者として OBOG の声を聞いて、対話していくということへ変わっていくと感じています。

Ⅱ. スポーツ・コンプライアンス・オフィサー養成講座で学んだことを活かして

石岡さんは、スポーツ・コンプライアンスのプログラムの重要性を感じ、東京大学で勤務の一環としてスポーツ・コンプライアンス・オフィサーで学んだことを学生たちに伝えている。その教えは確実に学生に浸透し、今では学生が自主的にスポーツ・コンプライアンスに関する、さまざまな企画を開催するほどになった。では、具体的にどのようにして学生に教えは浸透していったのか、その活動を聞いた。

——スポーツ・コンプライアンス・オフィサー養成講習会は何で知りましたか？

当時、東京大学副理事から、武藤芳照先生（東京大学副学長）をご紹介いただいたことがきっかけです。「武藤先生が立ち上げたスポーツ・コンプライアンスという分野を、運動会でも取り組んでみたらどうか」というご助言でした。さっそく運動会に働きかけて、「スポーツ・コンプライアンス」というプログラムがあり、運動会でもこのノウハウを広めていったほうがいいのではないのでしょうかと提案させていただきました。その流れで私が第1回スポーツ・コンプライアンス・オフィサー（SCO）養成講習会を受講することになりました。

——実際に受講してみているかがでしょうか？

私が思っていた以上に勉強になっています。特に事例を紹介していただいたり、講義の冒頭でスポーツ・コンプライアンスの必要性をわかりやすく説明していただき、学びやすかったです。受講前は資格を取る養成講習会なので、むずかしいテキストがあって、ガバナンスがどうか、行政的なむずかしい話ばかりかと思っていました。もちろん法律の専門的なお話を教えていただける部分もありつつも、スポーツ・コンプライアンスは、本当にスポーツを大事にするためのものなんだということとか、事例をもとに具体的なお話を本当にわかりやすく、いろいろな講師の先生方に教えていただけたので大変勉強になりました。養成講習会最終日には試験もあって、合格すると修了証もいただけたので、達成感がありました。

とくに良いと感じるのは、ただ、資格を取って終わりじゃない点です。SCOの勉強会が開催され、いろいろな立場の方々が登壇され、ご自身の経験を話されます。そうした勉強会に参加して話を聞くことも継続して勉強する機会となっています。それに受講生同士でネットワークができて、今でもコミュニケーションを取り合っています。

——SCO 養成講習会で学ばれたことをどのように活かしていらっしゃいますか？

私が毎年楽しみにしている運動会総務部の企画として「主将主務合宿」があります。毎年年に1回、1月に泊りがけで合宿します。スポーツなどで軽くアイスブレイクしたあと、リーダーシップ研修をやり、外部講師をお招きしてワークショップを開催したりします。その合宿で私も話をさせていただいております。私が参加した当初は、寄付金関係の仕事もしていたので、「寄付について話をしてください」というリクエストでした。しかし、私がスポーツ・コンプライアンスの勉強をしてSCOの資格をとったことによって「スポーツ・コンプライアンスの話をしてください」というように変わってきました。

少し、2020年主将主務合宿の話をさせていただければと思います。最近私がこだわっているのは「UTokyo Sports for ALL!——東大スポーツの価値」ということです。SCO 養成講習会で、スポーツの本当の価値ということを学ばせていただき、「私が目指していたものはこれだ!」とはっと気づいたものでした。「スポーツの価値をみんなで考えよう」というキーワードで毎年話をさせていただいております。これはま



運動会総務部の企画する「主将主務合宿」にてスポーツ・コンプライアンスの講義を行う石岡さん

さに武藤先生はじめ、みなさんから教えていただいていることです。

昨今のスポーツに関する不祥事の記事を取り上げて、「みなさんの部は大丈夫ですか？」と問いかけ、「競技成績が優秀な人や年上の人の意見ばかりが通りやすい雰囲気になっていませんか？」とか、コロナ禍で不安でも練習を休みたいと言えないような部ではなく、「誰もが意見を言える風通しのいい部ですか？」と聞いていきます。また、「しごき・暴言・ハラスメント」「負けたのはお前のせい」「男のくせに」といった身近なところにたくさんあるスポーツのねじれにも気をつけること。さらに部活動以外でも未成年飲酒、電車の中で傍若無人な振る舞いなどにも意識を持つことなどを話しています。

そうした話をする、スポーツ・コンプライアンスはなんで必要か？と思うのです。やはり子どものころにスポーツで嫌なことを経験すると、スポーツが嫌いになってしまいます。武藤先生も言われておりましたが、「みんなの大好きなスポーツの価値をみんなで守り、スポーツの素晴らしさをみんなで広げよう」ということを毎回話しています。

スポーツの価値として、スポーツは楽しい、苦しいことを乗り越えた達成感、仲間と体を動かす楽しさ、体を動かし、人と交流することで心身が健康になる、試合など大切な日に向けてコンディショニングを整える経験は社会に出ても役に立つと考えています。

さらに、「東大スポーツの価値とは何か」を考えたときに、私は「文武両道」ではなく「文武一道」という言葉を使います。勉強もスポーツも一緒に道なのです。“文”と“武”は別々の道ではなくて、道の極め方は同じで、互いに関連しあっているイメージです。東大はスポーツ推薦がありませんし、一つの学部偏っていません。スポーツ科学の研究も盛んです。私が一方的に話すのではなく、みんなで考えて、共存して「Sports for ALL」の精神で、スポーツを極めつつ、楽しむ。これこそが東大スポーツならではの良さだと



スポコンの教えは、着実に東京大学の学生たちに浸透している

と思っています。学生が自発的にワークショップなどを主催し、指導者も共感してくれる“みんなで考えていこうよ”という気持ちに火をつけられたらと思っています。

こうした主将主務合宿に参加することによって、私がSCOの資格を習得したことを学生も指導者の方たちも知っていただけるようになりました。東京大学の運動部でもさまざまな問題が生じることがあります。学生には、部員、指導者、OBOG、支援者との間で困ったことがあったら、運動会事務局、体育チームに遠慮なく相談したり、私に連絡してください。スポコン関連で困ったことがあったら、気軽に相談してくださいということを必ず伝えさせていただいております。SCOで学んだことによって、フラットな立場で組織的に安心して相談できる窓口として、これからも相談者の力になっていきたいと思っています。

——SCO 養成講習会や事例検討会で学んだことが活かされていますね。

まず学生からスポーツ・コンプライアンスのことを話してほしいと言われること自体が、私はすごく学生

が変わってくれたという実感があります。

2020年の主将主務合宿になりますが「飲酒についてちゃんとみんな考えようよ」というテーマを取り上げてくれたのです。私からは何も言わなかったのですが、彼ら自身が問題提起してワークショップを行ったのです。その後の懇親会にはアルコール飲料メーカーの方をお招きして、お酒の飲み方やお酒の作り方講座をやってもらいました。その他にも地域の消防署の方をお願いして、救急救命講座をやったりもしました。学生の企画の発想力は本当に無限大でおもしろいですね。このときは本当にSCO 冥利に尽きるというか大変うれしかったです。

——今後の活動について

これまでお話してきたようにスポーツと人をつなぐということをやってきましたが、本当に東大ってスポーツが必要なのっていうところで実は揺らいでいるんです。「スポーツは運動部のためでしょ」という人が凄く多すぎるのです。「それは違います。みんなのためです」というところは、やはりこれからもずっとやっていかないといけないと思っています。

我々が目指すのは、東京大学は日本のために何かをしようということを考える人が多い組織であるので、そのような中でスポーツを捉えたときに「運動部のためのスポーツでしょ」と言うのではなくて、東京大学

は日本一をとれるような強いスポーツはあまりないですが、だからこそ伝えていけることがあるのではないかなと思っています。

社会連携本部では

- ①すべての東大生が運動できる環境を整備する。
- ②大学スポーツの模範となり、スポーツの価値を守り育む。
- ③スポーツ科学研究を通じてサステナブルな経営体

に。
という3つの項目を提示し、問題提起していきながら、当事者の皆さんに響いて、自らの問題として考えてくれるといいなと思います。

東京大学は体育大学や東京六大学の他校と違ってスポーツ推薦やAO入試などで強い選手をスカウティングすることがむずかしいといった、指導者の苦しさとかジレンマがあるかと思いますが、スポーツ科学とのつながりを考えると東京大学は最強だと思っています。いかに4年間で到達点を上げていくかっていうのは量より質というか、科学的なアプローチが大事だと思います。4年間どうしたら勝てるのかを考えて取り組んできた学生たちが社会に出て、官庁や企業などに就職し、そこでスポーツに関わる仕事に就き、学生スポーツで培った経験を活かしていってくれることを楽しみにしています。



石岡吉泰（いしおか・よしやす）

1973年兵庫県生まれ。1992年灘高等学校卒業。1997年東京大学工学部建築学科卒業。2012年東京大学教育学研究科総合教育科学専攻大学経営・政策コース修士課程修了。1997年株式会社マイカル入社、アメリカンフットボールチーム「マイカルベアーズ」所属。2002年株式会社学生援護会入社、アメリカンフットボールチーム「学生援護会 ROCBULL」所属。2006年5月インダス株式会社入社、運動部学生の就職支援に従事。2006年11月学校法人立命館入職、スポーツ推薦入学者向け授業「アスリート入門」にゲストスピーカーとして登壇。2009年国立大学法人東京大学入職、社会連携本部渉外部門シニア・ディレクター、スポーツチームリーダー。2018年一般財団法人東京大学運動会監事兼務。2019年一般社団法人スポーツ・コンプライアンス教育振興機構認定スポーツ・コンプライアンス・オフィサー取得。